

米軍基地を止め続けてきた 10年間の闘いから 全国の行動へ



本日、私たちは、“辺野古の基地建設計画の白紙撤回”及び“普天間基地の即時無条件全面撤去”を求め、全国から託された3万筆を超える署名を衆参両議会に対し提出してきました。

私たちは、沖縄・辺野古での米軍基地建設阻止の闘いに触れ、これが沖縄だけの問題ではなく自らの問題なのだ気付き、自らの生活する地で行動を始めた一人ひとりの集まりです。そのアクションは、赤穂、大分、大阪、京都、滋賀、東京、長野、名古屋、福岡、那覇、名護と、たくさんの地域で取り組まれています。

それぞれの地域で、それぞれが主体となって、多くの人びとに辺野古のことを訴え、一緒に声をあげてもらうための街頭行動や署名活動、学習会などに取り組んでいます。

沖縄・名護市辺野古につくられようとしている米軍基地は、宜野湾市の中央に位置する普天間基地の代替施設として1996年の「沖縄に関する特別行動委員会(略称SACO)」において、沖縄の「負担軽減」のための「基地の整理縮小」を名目に建設が合意されたことになっています。

普天間基地は宜野湾市面積の25% (4.8 km²・千代田区面積の41%、東京ドーム103個分) を占めています。1945年にアメリカ軍による土地の

強制接収により建設され、現在は海兵隊の基地として使用されています。2003年11月、沖縄を訪れたラムズフェルド国防長官(当時)は普天間基地を視察し「危険だ、そして老朽化している。」と語りました。そして2004年8月13日、米海兵隊所属のCH-53D型ヘリコプターが空中分解をしながら辺りの住宅に機体をばらまき、普天間基地に隣接する沖縄国際大学本館に激突・炎上するという事件が発生しました。

辺野古ではこれまで、10年間にわたって地元の人びとが中心になって基地建設を食い止めてきました。その粘り強い闘いによって、2005年に一度は、従来の「沖合い案」が断念されたものの、政府はさらなる「沿岸案」を発表し、工事を進めようとしています。この「沿岸案」は、1966年に米海軍が現在とほぼ同様の案を計画していたことが発覚し、辺野古への基地建設が、決して「負担軽減」でも「整理縮小」でもなく、老朽化し使いづらくなった普天間基地を、米軍の理に適った軍港を併せ持つ最新鋭の基地につくりかえる計画であることが露呈しています。

現在、辺野古では、米軍基地建設に向けた「現況調査」(事前調査)が強行されています。一刻も早く基地建設着工に踏み切りたい日本政府は、環境影響評価法に則って行うべき手続きを一切無視し、手続き前の「事前調査」という名目で、サンゴ類、ジュゴンなどの海生動物、海象調査に着手しました。

さらに、海上自衛隊の掃海母艦「ぶんご」を派遣し、隊員が調査機器を設置するという前代未聞の事態が起こっています。

私たちは、この事態を何としても止めるため、今こそ点在している各地の行動を繋ぎ合わせ、大きなうねりをつくるときだと考え、国会への請願とそのため署名活動に取り組みました。

米軍基地の存在は、グローバルに利益を追求するアメリカを中心とした資本主義社会の一角を成し、米軍の覇権に依存するこの日本で生きている私たち一人ひとりが考え、行動しなければならない問題です。これ以上、世界の人びとを殺すための基地をつくることを、その加害性と基地から発生する事件・事故での被害を沖縄に背負わせることを、断固として拒否しましょう。

沖縄の、そして世界の人びとの命を守るために。



以下のサイトから辺野古の情報をリアルタイムで知ることができます。

ジュゴンの家日誌

<http://dugong2007.tuzikaze.com/>

ちゅら海をまもれ! 沖縄・辺野古で座り込み中!

<http://blog.livedoor.jp/kitihantai555/>

辺野古からの緊急情報

[http://henoko.jp/info/" target](http://henoko.jp/info/)

基地建設阻止

<http://henoko.jp/fromhenoko/>